



認定便り



1月



号



認知症看護認定看護師 水谷穂身

新型コロナ肺炎感染予防策の1つに、マスクの着用があります。  
マスク着用時のコミュニケーションのポイントをお伝えします。

私たちは、相手の声や視線、表情、態度など、多くの情報を受け取り、  
コミュニケーションを行っています。高齢になると、その情報を受け取り、  
判断する機能が低下しやすくなるといわれています。



- 口元が見えない（表情がわかりづらい）
  - 声が聞こえづらい（言いたいことが伝わらない）
  - 息苦しく感じてすぐ外してしまう
  - 間違えて口に入れてしまう（異食・窒息の危険）
  - マスクをしている家族を家族と認識できない
- ・・・など



## マスク着用時のコミュニケーションのポイント

マスクをつけていると表情が伝わりにくくなります。  
認知症の人と会話をするときは  
目元がクシャットなるくらい大げさに笑うと  
笑顔が伝わりやすいです。リアクションや、  
ジェスチャーもオーバーにすると伝わりやすいです。



また、なかなか言いたいことが伝わらないことがあるかもしれませんが、  
大声になったり、きつい口調にならないよう気を付けま  
しょう。ゆっくり、はっきりと、簡単な言葉、短い文節で区切ると  
伝わりやすいです。マスクの意味が理解できない、色が認識しづら  
くて着用できない方もいるかもしれません。ご本人の好きな色や柄  
でマスクを手作りしてみるのもいいかもしれませんね。

## ～認知症の方や高齢者を介護しているご家族の方へ～

コロナ禍で介護へ不安や負担を感じるが増えていますか？  
困ったときは、周りのひとや、かかりつけ医、ケアマネージャー、市役所等  
へ相談しましょう。ひとりで抱え込まず、周りの手も上手に活用しましょう。